

10月16日 地元探鳥会で発見したカルガモです。場所は、叶谷湧水地。民家の軒先を流れる水路にカルガモがのんびりしていました。目の前が道路で、すぐ近くで見ることが出来ました。カルガモも慣れているのか人が見えても動じません。水は澄み切っていて小魚がたくさん泳いでいました。ジュズダマも生えていました。写真は粕谷和夫より

紅葉台



新聞

第159号
2024年
12月7日
発行人：関谷 孝

地元探鳥会 八王子8湧水池めぐり(その1)



10月16日(水)曇り。涼しくなったの歩きは快適でしたが、15000歩の行程でした。八王子市には名前にちなんで8つの湧水池があります。2008年に代表的な8つの湧水池を認定し「湧水めぐりマップ」が出来ました。今回はそのうちの3つ

を巡りました。

午前9時、めじろ台駅に集合。8名参加。広い万葉公園の中を通ると、グランドゴルフや犬の散歩に来ている方が談笑していました。人々の憩いの公園です。ヤマガラウの鳴き声が良く聞こえました。真覚寺の「心字池」は小比企丘陵の北側斜面から染み出た湧水によって潤っています。この池には江戸時代から広く知られ、冬眠から覚めたヒキガエルが池に集まり繁殖のため雄同士が争う「蛙合戦」で有名です。1962年に「蛙の生態および繁殖地」として市指定天然記念物になりましたが、めじろ台団地が開発されてからはカエルがいなくなりました。現在は「真覚寺蛙合戦の旧地」として市指定史跡になっています。お墓の入り口にコンコンと湧く澄み切った水は池に流れていきます。大きな鯉に見とれているとカワセミの鳴き声が聞こえ、池を横切っていました。



次は、南浅川を見ながら遊歩道を歩きます。ここはカワラバトが群れています。浅川の魚道にはコサギとアオサギが真剣に川面を見つめ並んで獲物を狙っていました。一本足で立っているコサギの足指が黄色いのがよく見えました。アオサギは首尾よく魚を捕まえていました。川近くのヒマラヤスギの大木の樹上にはいつもダイサギが陣取っているようですが、今日はいませんでした。案内役の門倉さんが教えてくれました。その後、水無瀬川橋を渡り横川弁天池を目指します。横川弁天池は、浅川と南浅川の合流点に近い低位の段丘に位置する湧水です。昔から水の利用が盛んな場所でした。この辺りは水田が一面広がっていましたが、今は住宅地になっています。



湧水の周辺では、縄文時代晩期に使用された土器や石器、装飾品が数多く出土しています。そのことから湧水周辺に集落が存在していたようです。かつては池のほとりに弁財天を祀る祠があり、周辺ではワサビが栽培されるほどの清流だったそうです。今は、カルガモ

がのんびりと泳いでいました。夏の暑さに藻が繁殖して地下から湧き出る水の様子がよく見えませんでした。地域の人たちが池の掃除をしているので水が澄んでいました。



最後は「叶谷榎池」ですが、迷いながら結構歩きました。近くにランドセル地蔵で有名な相即寺があります。年に何回かは戦争で亡くなった子供が背負っていたランドセルを公開しているようです。徳川家の家紋があり有名なお寺と粕谷会長が話していました。途中の道でモズがアンテナ

に止まっているのが見えました。叶谷町は、浅川と城山川に接し、その他の河川が周辺部を流れる地形にあり、昔は水が豊富で湧水にも恵まれた土地でした。「叶谷榎池」は樹齢百数十年と言われるエノキの大径木があります。エノキの根元付近から勢いよく湧き出た水は、人々の生活に使われて活気のあった時代だったようです。今でも家々の周りに水路があり、この地一帯が豊かな水に恵まれていたのが良く分かります。水路の一角でカルガモが数羽のんびりと過ごしていました。水底も透き通っていて魚が泳いでいるのが見えました。そこへカワセミがやって来ました。餌となる魚がいるところにはカワセミも住んでいるようです。叶谷榎池にも運よくカワセミが来ました。下の嘴が赤くメスと分かりました。3つの湧水池にはどれもカワセミが住んでいました。水が豊富で澄んでいて餌となる魚がいることが生き物の生態に影響を与えています。今回3つの湧水池を回りましたが、八王子にはこのような湧水がたくさんあります。かつて人々の生活を支え、水田が広がり、生き物もたくさんいました。そんな昔の風景を彷彿させる湧水池めぐりはみんなと歩いて回るからこそその発見がありました。(残りの湧水池探検も楽しみにしててください)



粕谷和夫の観察日記



10月31日多摩川右岸(東京都日野市)を歩いていると刈り込まれた草むらから舗装された通路に「蛾」が出てきました。大きさは5cmより少し大きめ。図鑑を調べても該当するものが無いので蛾に詳しい知人に尋ねると「**フクラズメ**の羽化直後でまだ翅

が完全には固まっていない個体」ということでした。この蛾の幼虫はカラムシという野草の葉を丸坊主にして、刺激すると首振りをする派手な色をしている毛虫です。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。